

公約の実行・きめ細かな政策を実現せよ!

公明党津山市議団

代表質問者 原 行則



岡安

川端

原

質問↓今年度、小中学校単位で親学講座や家庭教育手帳の作成をするとしているが、親学講座の具体的な内容は。

答弁↓生活リズムの確立、規範意識や道徳心の向上及び家庭学習の必要性と習慣づけ等をテーマに「親学講座」を学校ごとに開催する。

質問↓以前より提案していた不妊症対策として、体外受精等の治療費の一部を助成する政策が実現したが、その制度の具体的な内容は。

答弁↓不妊治療のうち、治療費が高額な体外受精及び顕微授精について治療費の一部を助成する。対象者は津山市に一年以上住所を有し、岡山県の不妊治療支援事業の助成を受けている夫婦で、助成額は治療費から県の助成額を引いた額の三分の一以内で、一回につき十万円を限度として、通算五年間で四回まで、一年度あたり二回まで助成する制度である。

質問↓今年度の地域産材使用の新

築住宅補助金三十万円の申請は既に上限の三十三件が終了したが、もう一段の拡充をすべきではないか。

答弁↓森林・林業や地元経済の活性化のためにも役立っており、検討する。

質問↓クリーンセンターの完成時、ごみ分別は現在の方法と違いはあるか。

答弁↓大きな違いはないが、久米地域については、現在可燃ごみとなっている容器・包装プラスチック類を資源ごみとして分別していただくことになる。

質問↓津山市でも市民から要望のある可燃ごみリットル袋の作成が必要ではないか。現在の二十リットル袋より小さい袋のニーズは必ずあると思う。最近のごみ袋の販売状況はどうか。

答弁↓市民の皆様のご協力により平成十二年度と昨年度を比べると年間六百三十三トンの家庭可燃ごみが減少している。津山市の二人以下の世帯数は総世帯数の

の五割を超えている。また、可燃ごみ袋の販売状況で四十五リットル袋は減少し、二十・三十リットル袋が増加している。このような状況から、可燃ごみリットル袋の作成を、今年度の実施に向けて検討する。

質問↓「こけなから体操」等で高齢者が週に一度集まる地域の公会堂は、和式トイレで手すりがなく段差もあり、バリアフリーになっていない会場がほとんどで、トイレ等に困るとの声も聞く。洋式トイレや手すりの設置、段差の解消など、公会堂のわずかな改修は、地域の要望があれば市の助成制度で取り組めるのか。

答弁↓各町内会の集会施設は地域住民の連帯感や福祉の向上を図る重要な施設である。市は一部改修工事であるバリアフリー工事については、対象費用の三割、上限額二十万円の助成基準を設けている。規模の小さい一部改修工事については可能な限り迅速な対応を心がける。

◎ 議員は病気見舞金を禁止されています。